

R7年度 石灰石需給 中間見直し

■ 事業環境

- 国内の建設業界は、前年度から引き続き現場技術者不足と資材価格高騰が継続している。今年度はこれらに加えて建設業界の労働時間規制および夏季の熱中症対策への対応が重となり、建設現場では計画・設計の見直しや工期の延長が常態化して、生コン出荷および国内セメント販売は下振れして推移している。
- 鉄鋼関連は、内需が低調なことに加えて、中国経済の低迷から日本を含むアジアへの鋼材輸出が顕著となり普通鋼材の市況が低迷して、国内の粗鋼生産は低調に推移している。

■ 石灰石事業

- 令和6年度上期の石灰石の生産・出荷は、建設関連および鉄鋼関連が昨年度より低調なことから昨年度を若干下回って推移した。
- 令和6年度下期は、国内においては上期の建設業界の停滞基調が継続すると想定され、海外要因については、米国関税政策が及ぼす国内産業への影響が徐々に顕在化することがリスク要因として意識されるため、石灰石の需給は上期の基調から若干下振れする可能性を意識しておく必要がある。

■ 需要家業界の動向

	R6年度 上期実績	R7年度 上期実績	前年比(%)		R6度 実績 A	R7年度 見通し B	前年比(%)	対前年 増減 B-A
建設関連								
セメント	国内販売 (百万㌧)	16.3	15.3	▲ 6.1	32.6	30.5	▲ 6.5	▲ 2.1
輸出	(百万㌧)	4.1	4.5	10.1	8.2	9.0	10.1	0.8
生産	(百万㌧)	22.7	22.2	▲ 2.3	45.9	44.6	▲ 2.7	▲ 1.2
生コン	出荷 (百万m³)	33.0	30.5	▲ 7.5	65.7	60.5	▲ 7.9	▲ 5.2
鉄鋼関連								
粗鋼	生産 (百万㌧)	41.8	40.1	▲ 4.2	83.0	80.0	▲ 3.6	▲ 3.0
石灰	生産 (百万㌧)	3.5	33.9	▲ 3.5	6.4	6.2	▲ 2.8	▲ 0.2

■ 石灰石の生産量・出荷量

	R6年度 上期実績	R7年度 上期実績	前年比(%)		R6度 実績 A	R7年度 見通し B	前年比(%)	対前年 増減 B-A
建設関連								
セメント向け	(百万㌧)	23.9	23.1	▲ 3.4	47.8	46.0	▲ 3.8	▲ 1.8
骨材向け	(百万㌧)	13.4	12.8	▲ 4.3	26.8	25.5	▲ 4.8	▲ 1.3
(小計)	(百万㌧)	37.3	35.9	▲ 3.8	74.6	71.5	▲ 4.2	▲ 3.1
鉄鋼関連								
鉄鋼向け	(百万㌧)	8.3	8.1	▲ 2.6	16.6	16.3	▲ 1.9	▲ 0.3
石灰向け	(百万㌧)	4.0	3.8	▲ 5.3	7.9	7.6	▲ 4.7	▲ 0.4
(小計)	(百万㌧)	12.3	11.9	▲ 3.3	24.5	23.8	▲ 2.9	▲ 0.7
その他	(百万㌧)	5.1	5.6	9.4	10.6	11.6	9.4	1.0
輸出	(百万㌧)	3.3	3.4	3.6	6.4	6.7	3.6	0.2
出荷量	(百万㌧)	58.0	56.8	▲ 2.1	116.1	113.6	▲ 2.2	▲ 2.6
生産量	(百万㌧)	58.0	56.8	▲ 2.0	116.4	114.0	▲ 2.1	▲ 2.4

単位：千㌧

石灰石生産量の推移

